

～北海道は帯広から～

帯広第一病院 研修医 知念 澄志 (26期生)

同窓会の皆様、こんにちは。26期の知念澄志と申します。私は今消化器外科医を目指し、北海道の帯広第一病院にて研修しております。帯広第一病院は合計303床の病院で内科・外科の医師が20名程度（うち研修医5名）で日々の診療をしております。医師に対しての病床数が比較的多いため、研修医も主戦力として扱われ日々の業務に追われています。

外科に関しては東北大学の関連病院であり常勤医4名と出張医1名が派遣されており、年間500例程度の手術を行っています。その中で研修医1年目は虫垂炎・ヘルニア、2年目からは腹腔鏡下胆嚢摘出術・回盲部切除、3年目は胃切除などを執刀する機会があります。早めから執刀をさせてもらえる分もちろん勉強もしなくてはならず、術前に解剖の本を片手に手術書を読んで手術の流れを勉強し、また術前のプレゼンテーションをする際には指導医の先生に細かく手術のポイントを教えていただきます。術中も厳しく指導され、怒られることも多々あります。術後管理は病棟からのfirst callは1年目が受けるので、何かあったら指導医に連絡し対応していきます。また消化管穿孔や絞扼性イレウスなど緊急手術も多く、家に帰

れない月も多々あります。

最初の頃は右も左も分からず周りのスタッフに迷惑をかけていましたが、半年以上経ち色々なことに慣れてきて、指導医や看護師に信頼されるようになり任せられることも多くなってきました。そこで最近一番気を付けなければならないと思ったことは、どんな決断も安易にはしてはならない、どんな些細なことでも必ず上級医に報告・連絡・相談するということです。研修医のミスはたいてい上級医に相談せず自分一人で勝手に決断をした時におこります。そして当たり前のことですが私達のミスによって患者は命の危険にさらされます。そういう自覚を持って、日々恐怖を感じながら働いています。

最近の新聞のテレビ欄で“研修医は医者にあらず”というフレーズを目にしました。そのドラマを見ていないのでどういうニュアンスかはわかりませんが、確かに研修医は自分一人では治療方針は決められず治療もできないので、“医者”ではないのかもしれませんが、でもいつか自信を持てるようになるために、“医者”になれるように頑張りたいと思います。

